

准 看 学 院 今 昔

上川北部医師会会長
同附属准看護学院学院長
吉 田 肇

昨年上川北部医師会附属准看護学院では、各医療機関にアンケートをお願いしました。その目的は、当准看護学院がどのような実績をあげてきたか、現在この地域に対して如何に貢献しているか、これを踏まえ将来展望を考えるとということでした。又、当学院は、昭和45年に「上川郡北部医師会附属准看護婦養成所」として発足し40年の歴史があります。学院発足からの歩みとアンケートの結果報告を兼ねて拙文をしたためました次第です。

i) 発足の経過と現況

戦後の厳しい医療情勢から脱却しはじめた昭和40年初頭、道北の地においても、働きながら准看護婦の資格を取得させようという気運の高まりを受けて、養成所設立の動きが始まりました。昭和41年から昭和45年までは通信教育と名寄・士別の両総合病院を実習病院として学んだ82名もの通信学院課生徒が准看護婦(当時)の資格を得ています。

当時は、名寄市内の開業医は勿論のこと、近隣市町村の病院・診療所では資格のある看護婦は少なく、多くは看護助手による医療提供にとどまっていた。これに対し将来予測される医療サービスの向上と、地域医療の確保のためには、有資格者の看護婦の養成に力を注ぐべきであるとして、昭和44年名寄市内の開業医の発議をもって、准看護婦養成所の設置にむけた動きがはじまりました。

既に道内においては、いくつかの医師会立准看護養成所が設立されており、それ等の実態を調査し、設立準備にかかりましたが、資金の調達、施設の準備、内部設備の完備、教材の用意、スタッフの確保等、新しい学校を作るには大変な苦勞を要しました。因みに施設については、電話局の施設が土台も建物も堅固という理由で選ばれました。今なお同じ建物を使用していることからこれは先見の明のある選択でした。資金は各開業医に出資金が割りあてられましたが、これらの準備

に奔走されたのが初代運営委員長の中村稔先生でした。

教育課程は、基礎、臨床32教科で、各科毎の講義は名寄開業医師全員が無報酬で協力し、そのほか下川町から山口昴先生・一の橋の森祥一先生・士別市の斉藤昌淳先生が遠方から本学院授業に尽力されました。一般教養については、講師の確保が困難を極め市内高校の教師及び市内に塾を開校されている諸先生に協力を依頼しました。教務主任として菅野先生を迎えましたが、学院の運営と教務が分れた学校が珍しい時代でした。

日常の診療従事による研修に加えて、より高度な専門技能の習得を目指し、2次医療機関である名寄・士別両総合病院及び国立名寄療養所の全面的な協力により、実習病院として設定、これらの諸条件を設備し、上川郡北部医師会総会の決議を経て、昭和45年北海道知事に許可申請し、同年4月「上川郡北部医師会附属准看護婦養成所」として開校致しました。

昭和48年4月には、「学校教育法」に基づき「各種学校」「上川郡北部医師会附属准看護学院」として、あらたな発足をみました。その後、上川郡北部医師会は上川郡及び中川郡に跨るため「郡」を冠することに馴じまないとの理由から、平成5年4月に「郡」が削除されました。それに伴い、当学院も「上川北部医師会附属准看護学院」と改名されました。時代の変遷とともに、お礼奉公問題や通常勤務下では看護の知識や技術の取得が十分に行われないということが取り上げられ社会問題となりました。平成9年に厚生省から生徒の不利益な取扱いを禁止することや准看護婦・看護婦の養成の資質向上に何かと厳しい通達があり、同年3月に指定規則の一部改定が公布され、4月に施行それに伴い、当学院も内容態勢の変更を余儀なくされました。

平成10年には、当学院の財源不足と専任教員の高齢化による補充が必要となり、学院存続そのも

のが危ぶまれ、募集中止を考えるまでにいたりしました。現況を把握するために管内医療機関へ看護職員の確保状況や学院継続の必要性などについてアンケート調査を行いました。それに基づいて学院財源の推計を算出し、同年10月に市に教務スタッフの確保支援と補助金増額の要請書を提出し、12月には何とか専任教員確保はできたものの厚生省の准看護婦・看護婦養成所への重圧は相変わらず厳しいものがあり、①「教務主任となりうる資格取得者の配置」、②「専任教員の増員（准看護養成所は、2人以上から5人以上に＜当分の間、3人以上＞）」、③「カリキュラムの改編（准看護養成所は、平成14年度から1500時間を1890時間に）」等の指定規則の改定が行われています。

平成11年7月に道庁を訪問し、今後の内容詳細を確認、当学院の展望について話し合い、運営委員会でこのことを報告しました。専任教員、有資格者配置のため平成13年度専任教員講習会受講、名寄市から補助金の増額や上川北部医師会からの設置者負担金の助成、平成12年度生徒募集から昼間授業への転換、実習病院の拡大（市立士別総合病院や幼稚園）を計っております。

後半は少し細かくなりましたが、当学院は設立以来、財源問題、スタッフ確保の問題、最近では生徒の意識の変化等、常に難局にさらされてきました。しかし、スタッフの努力と周囲の協力、学院自体の自助努力でその都度困難を乗り越え現在に至っております。名寄市立総合病院には講師の派遣、実習病院として多大なる御協力いただきいつも感謝申し上げている次第です。

歴代学院長、運営委員長、教務主任、事務長を列挙しました。多くの方が彼岸におられますが先輩達の努力なくしては、当学院は存続できませんでした。

ii) アンケートの結果について

アンケートを管内33施設にお願いしたところ、全施設から御回答をいただきました。大変ありがたく思っています。

結果は別表にあるように管内准看護師の約半数は当学院の卒業生が占めています。看護師の8%が当学院の卒業生でした。近年当学院卒業生の70%以上は高等看護学校等に進学しています。そのため看護師の占める割合も増えてくると予想されます。高看に行っても是非Uターンしてこの地区の医療に協力して欲しいというのが我々の願いです。

看護職員確保について、各病院では、「何とか

確保できている」が全体の半数を占めておりますが、残りの半数は「確保出来ないことがある」、「確保出来ないで困っている」となっています。医院については、「何とか確保できている」が大半を占めていますが「准看護師確保が困難」、「看護師・准看護師の両方とも困難」も22%となっており、まだまだ看護職員の確保には、苦勞している様子が見られます。

平成21年度末現在、本学院から社会に送り出した准看護師有資格者は、764名に達し、当学院が輩出する人材の価値が益々高まるものと思われま

す。今後も予想される難局は多々ありますが、40年にわたって続いてきた上川北部医師会附属准看護学院をこれからも続ける所存でいますので宜しくお願い致します。

中村、坂田、岡崎各運営委員長の監修をいただきました。

学院スタッフ、医療スタッフに御協力いただきました。感謝申し上げます。

上川北部医師会五十年誌を参考にしました。

看護職員に関するアンケートの結果

(平成21年6月現在)

アンケート回答状況 回答率 100%

依 頼 数				回 答 数			
病 院	医 院	老健施設	計	病 院	医 院	老健施設	計
8	23	2	33	8	23	2	33

1、看護職員の数等

施設区分	看護師		准看護師		合 計	
	人 数	平均年齢	人 数	平均年齢	人 数	平均年齢
病 院 (当院出身者)	421 (34)	38.1	231 (111)	46.4	652 (145)	41.0
上記のうち 民間病院	46 (8)	41.7	101 (64)	45.2	147 (72)	44.1
医 院 (当院出身者)	20 (2)	40.7	63 (41)	41.4	83 (43)	41.2
老健施設 (当院出身者)	5	51.0	20 (5)	42.6	25 (5)	44.2
計 (当院出身者)	446 (36)	38.3	314 (157)	45.2	760 (193)	41.2

※ 看護職員全体の平均年齢 41.2歳

准看護師の平均年齢 45.2歳

看護師の平均年齢 38.3歳

2、看護師及び准看護師の資格取得状況について

＜准看護師資格取得者＞

- ・当学院を卒業している准看護師 157名
- ・他の准看護学院を卒業した准看護師 157名

<看護師資格取得者>

・看護大学を卒業した看護師	5名 (約 1%)	
・短期大学を卒業した看護師	69名 (約15%)	
・高等看護学校を卒業した看護師	205名 (約46%)	
・当学院卒業後、進学して看護師になった者	36名 (約 8%)	
・他の准看護学院を卒業後、進学して看護師になった者	130名	} (約30%)
●通信制大学	1名	

3、看護職員の確保状況

ア、病院	① 充分、確保出来ている	0院
	② 何とか確保出来ている	4院 (公2院、民2院)
	③ 確保出来ないことがある	1院 (〃1院、〃0院)
	④ 確保出来ないで困っている	3院 (〃1院、〃2院)
	以上	8院
イ、医院	① 充分、確保出来ている	3院
	② 何とか確保出来ている	14院
	③ 確保出来ないことがある	4院
	④ 確保出来ないで困っている	1院
	以上	22院
ウ、老健施設	② 何とか確保出来ている	1施設
	④ 確保出来ないで困っている	1施設
	以上	2施設

4、看護職員確保困難な職種

前問で、「③ 確保出来ないことがある、④ 確保出来ないで困っている」と答えた医療機関で確保困難な看護職種

ア、病院	① 看護師確保が困難	3院 (公2院、民1院)
	② 准看護師確保が困難	0院
	③ 看護師、准看護師の両方とも	1院 (公0院、民1院)
イ、医院 (診療所)	① 看護師確保が困難	0院
	② 准看護師確保が困難	3院
	③ 看護師、准看護師の両方とも	2院
ウ、老健施設	① 看護師確保が困難	0施設
	② 准看護師確保が困難	0施設
	③ 看護師、准看護師の両方とも	1施設

5、看護職員の離職の状況

ア、病院 毎年1～3人の離職と答えた病院が多く、最大は1公立病院の16%程度の離職者である。

イ、医院 毎年1人位と答えた医院が6院、0.5人と答えた医院が3院、0～2人と答えた医院が1医院、2年に1人と答えた医院が1院であった。

ウ、老健施設 毎年1人位と答えた施設が1施設あった。

6、離職者の補充方法（複数回答あり）

病院

①離職者に備えて常に余裕をもって採用	3院（公0民0、医院2、老健1）
②新聞による求人広告	17院（公3民2、医院11、老健1）
③当准看護学院に生徒を送り、人材を養成し、確保	3院（公1民1、医院1、老健0）
④他の看護師等養成施設に求人し、確保	0院（公0民0、医院0、老健0）
⑤奨学金を貸与し、資格取得を支援し、計画的に確保	2院（公1民0、医院1、老健0）
⑥その他（知人等の紹介、ハローワークなど）	10院（公2民2、医院6、老健0）

7、今後の人材確保について、その見通し

（1）看護師の確保について

ア、病院	①心配ない	0院
	②心配である	7院（公3民4）
	どちらでも補充が出来ればよい	1院（公1民0）
イ、医院 （診療所）	①心配ない	7院（うち4院は看護師を置いていない）
	②心配である	10院（うち2院は看護師を置いていない）
ウ、老健施設	①心配ない	0施設
	②心配である	2施設

（1）准看護師の確保について

ア、病院	①心配ない	2院（公1院、民1院）
	②心配である	5院（公2院、民3院）
イ、医院 （診療所）	①心配ない	4院
	②心配である	18院
ウ、老健施設	①心配ない	0施設
	②心配である	2施設

歴代学院長

氏名	医療機関	期間	備考
鷺塚三郎	名寄共立病院	S.45. 4 ~ S.47. 3	
遠藤季雄	遠藤医院	S.47. 4 ~ S.60. 3	
片平四三男	片平外科医院	S.60. 4 ~ H. 3. 5	
坂田暉英	坂田医院	H. 3. 5.17 ~ H.12. 3	
吉田肇	吉田病院	H.12. 4. 1 ~ 現在に至る	

歴代副学院長

氏名	医療機関	期間	備考
遠藤季雄	遠藤医院	S.45. 4 ~ S.47. 3	
片平四三男	片平外科医院	S.47. 4 ~ S.60. 3	
白田敬一	白田医院	S.60. 4 ~ S.60. 9	
中村稔	中村整形外科	S.61. 4 ~ H 3. 3	
長尾恒	医療法人社団三愛会老人保健施設「ボヌール士別」	H. 3. 4~現在に至る	

※片平外科医院は、平成4年7月に現在の片平外科・脳神経外科となる。

歴代運営委員長

役職	氏名	医療機関	期間	備考
運営委員長	中村稔	中村整形外科医院	S.45. 4 ~ S.60. 3	
〃	坂田暉英	坂田医院	S.60. 4 ~ H. 3. 3	
〃	坂田仁	名寄中央病院	H. 3. 4 ~ H. 14. 3	
〃	岡崎望	岡崎内科	H.14. 4 ~ 現在に至る	

※岡崎医院は、平成元年11月に現在の岡崎内科となる。

歴代教務主任

氏名	期間	備考
菅野ヒサ子	S.45. ~ H. 3.10	
武口智恵子	H. 4. 4 ~ H.14. 3 〔菅野先生退職後の5ヶ月間、 教務主任空席となっている (名寄保健センター在籍のため)〕	
宮方佳織	H.14. 4 ~ 現在に至る	

歴代事務員

氏名	期間	備考
畑山章	S.45. 4 ~ S.52. 3	
寺下彦次郎	S.52. 4 ~ S.59. 9	
木村鉄蔵	S.59.10 ~ H.元. 4	
藤部吉昭	H.元. 5 ~ H.10. 3	
石川孝雄	H.10. 4 ~ H.14. 3	
羽生悟	H.14. 4 ~ H.21. 3	
内海博司	H.21. 4 ~ 現在に至る	